

＜参加者募集要項＞

公益財団法人日本グローバル・インフラストラクチャー研究財団 夏期インターンシップ 「グローバル・インフラストラクチャーに関する調査研究」

公益財団法人「日本グローバル・インフラストラクチャー研究財団(日本 GIF)」は、持続可能な社会の実現のため、国をまたぐ大規模なインフラストラクチャー(エネルギー輸送網、国際流域における水資源管理システム、国と国を結ぶ交通ネットワークなど)と、それに関連する国際機関の動向や各国の政策等について、1990年の財団創立から調査・研究を行っています。詳細は日本 GIFのウェブサイトをご覧ください(<https://www.gif.or.jp/about>)。

このたび、大学生を対象に、調査研究の手法や論文執筆を体験していただく「夏期インターンシップ」を開催いたします。専門家やチューターから調査研究の方法を学び、グループでテーマに沿った調査研究に取り組んでいただきます。最後に、結果を論文に取りまとめる経験をしていただくプログラムとなっています。

本企画は今年で6回目になり、参加者のみなさまには毎年ご好評いただいています。調査研究の方法や論文の書き方を学びたい、他大学の学生と分野の垣根を超えた交流をしたいという皆さんのご応募をお待ちしています。

※活動の様子は「[夏期インターンシッププログラムの紹介](#)」も御覧ください(QRコード▶)。



インターンシッププログラム実施の目的

- グローバル・インフラストラクチャーの重要性を、若い世代の多くの方に知っていただきたい
- お住まいの地域を問わず、大学生の皆さんに広く体験・交流の機会を提供したい
- 調査研究に興味を持つ方を増やしたい

昨年の参加者の声

想像以上にしっかりと論文執筆に加え、質疑応答のしっかりとした発表機会を期待以上(のプログラム)だった。

論文執筆の仕方について学べて、またチームで協力して活動できたことで、とても有意義だった。

最終的に良い論文を執筆することができ、チューターの先生、メンバーとの共同作業が楽しかった。

想像していたよりも、集まった方々それぞれが多様な分野を扱っているのに加え、気兼ねなく、察しあえる環境だった。

メンバーそれぞれに長所があり、それを上手く(生かして)協力できた。

自身では決して触れないようなテーマだったので面白かった。

隔週オンラインミーティングでの実施だったため、関東に限らず他の地域の学生も参加できたと思う。

もう少し期間が長ければ、より詳細な調査ができたと思うが、この期間だったからこそ気軽に参加できたと思う。

(発表時の)質疑応答の対応は難しかったが、自分なりに回答することができ、一歩成長できたように感じた。

(発表前は)質疑応答の時間が長すぎると感じていたが、実際には深い議論をすることができて良かった。

学業やその他いろいろ行っている人からすると、夏休みの間で多くのことを学べるので、長すぎず短すぎない程よく何かと両立できる期間だと思った。

一緒に活動した仲間からたくさん刺激をもらったり、チューターの先生に直接指導していただいて論文執筆のスキルを磨くことができたりと、ここでしか得られないことをたくさん経験することができた。

実施期間

2026年8月1日(土)～10月3日(土)

上記期間内に、対面ミーティングを2回、オンラインでのグループミーティングを4回予定しています(詳細は下記参照)。

期間内の活動時間は、1週間におよそ4時間程度を想定していますが、進捗によって変化します。

プログラム内容

1, 対面ミーティング①

日程: 8月1日(土)13:30～17:30、8月2日(日)9:30～12:00

※初日の夜は懇親会を予定。宿泊・懇親会の参加は任意。希望者は全員宿泊可。

会場: 東京都内の研修型ホテル

内容: 調査研究の進め方、論文の書き方などについて、大学教員など専門家が説明します。その後、数名のチームに分かれて、グループワークを行います。各グループに、「あるグローバル・インフラストラクチャー(イメージは後述)が20年以内に実現可能か、可能にするにはどのような条件があるか、不可能ならその理由は何か」という研究テーマを提示します。チューターを交えて、研究テーマの内容や、今後の研究の進め方について話し合います。

調査研究の例: 中東平和水パイプラインについて

(インターンで実際に取り組む研究テーマではありません)

1986年にトルコは、アラビア半島にある諸国にトルコが水を無料で提供する為の「平和水パイプライン」建設を提案しました。しかし、「平和水パイプライン」は20世紀中には実現しませんでした。ところがトルコは2010年代半ばに、同国の南東部から北キプロスへの海中パイプラインを建設して、水を無料で提供し始めました。現在、トルコはヨルダンへのパ

イプライン建設と水の提供を提案しています。

「今から20年以内にトルコからヨルダンへのパイプライン建設と水の提供は実現する可能性はあるのか、可能性があるとしたら、その為に不可欠な条件は何なのか」を、専門家やチューターのサポートを受けながら、チームで調査して明らかにします。

2, オンラインミーティング(4回予定)

- 2週間に1回程度、1回1~2時間ほど、チューターの指導のもと、チームのメンバーで調査研究の進め方について話し合います。
- 次のミーティングまでの間に、チームで決めた計画に従って、各自で情報収集や関連文献の読み込みなどの調査を進め、再び持ち寄ります。
- 最後には、メンバーで分担して、学術論文を執筆します。また、対面ミーティング②に向けて、執筆論文をもとにした発表の準備をします。

3, 対面ミーティング②

日程: 10月3日(土)9:00~17:30 (懇親会 18:00~20:00)

※懇親会の参加は任意。希望者は全員10月2日(金)の宿泊可、懇親会参加の遠方居住者は10月3日(土)の宿泊可。

会場: ①と同じ東京都内の研修型ホテル

内容: 午前中にグループワークを行って発表の準備をし、午後に各チームの研究発表を行います。

募集人数

10名程度

対象者

- 日本国内の4年制大学に在籍する大学生(大学院生は除く)
- グループワークでの調査研究に興味がある方であれば、学部・専攻は不問(理系・文系どちらでも可)
- 年齢、性別、国籍不問(留学生の方はご相談ください)
- 日本語による講義が理解でき、日本語でのコミュニケーションが可能な方

参加条件

- 8月1日(土)~2日(日)および10月3日(土)の対面ミーティングに参加できる方
※ どちらか1回のみしか参加できない方は不可といたします。
- オンラインミーティングに参加できる方
※ インターネット環境や、パソコン等の機材は各々ご用意をお願いいたします。

費用

- 参加費は**無料**です。
- 自宅から対面ミーティングの会場(東京都内)までの、2 回分の往復の旅費・交通費は、**当財団が負担**します。
※8月1日(土)と10月2日(金)については、居住地に関わらず、宿泊を希望する方の**宿泊費を当財団が負担**します(10月3日(土)は、宿泊を希望する遠方居住者のみ宿泊費を負担します)。
- 対面ミーティング時の食事、懇親会の費用は**当財団で負担**します。

その他

- 期間中は、当財団の費用で傷害保険に加入します。
- グループ分け、担当する研究テーマは、当財団で決定します。
- 執筆していただいた論文を素材にして作成した成果物は、当財団の研究成果として公表させていただきます場合があります。
- 対面ミーティング②終了後に、インターン修了証を発行します(日英可)。

応募・選考方法

下記の書類を、**2026年5月21日(木)17時まで**に、info@gif.or.jpにご送付ください。

- (1) 履歴書(書式は任意)
- (2) 本人確認書類のコピー(学籍、居住地が確認できるもの、学生証などの身分証明書)
- (3) 課題(WordあるいはPDF形式、A4用紙1枚以内、文字数指定なし、AI使用可)

○冒頭に氏名を記載してください。
○「タイトル」の記載は任意です。
あなたの身の回りで「気候変動の影響」だと感じる現象を1つ挙げてください。
その上で、なぜそれが気候変動の影響だと考えるのか、わかりやすく説明してください。

- 2026年8月1日時点で18歳未満の方は、応募書類の提出前に、保護者の同意を得てください。
- 送付いただいた個人情報は当財団の規程に従い適切に取り扱い、本プログラムの実施以外の目的での使用はいたしません。選考後、不採用者の情報は速やかに破棄します。
- 選考の過程で、オンライン面接を実施する場合があります。
- 参加をお願いする方には、**2026年5月29日(金)までに**当財団より連絡いたします。それまでに当財団からの連絡がない場合は、ご参加いただけない旨、ご了承ください。

お問い合わせ先

公益財団法人日本グローバル・インフラストラクチャー研究財団 事務局

電話:03-4567-6267/050-5601-8106(平日9:30~17:30)

Email:info@gif.or.jp